

関連研修コース概要

平成 9 年度中央アジア・コーカサステ設マクロ経済コース	77
平成 9 年度中央アジア特設農産物市場経済コース	93
平成 9 年度中央アジア特設環境行政コース	111
平成 10 年度中央アジア経営管理コース	131
平成 10 年度中央アジア特設地域開発セミナー	149
平成 10 年度中央アジア・コーカサステ設財政金融コース	167

平成9年度

中央アジア・コーカサス特設マクロ経済コース
実施要領

平成10年1月

国際協力事業団
東京国際研修センター

目 次

1. 研修コース名等	1
2. コースの背景・目的	1
3. 主な研修項目・内容・到達目標	2
4. 研修方法・使用言語	3
5. 研修員資格要件・選考	3
6. 実施体制	3
7. 参考資料	4
8. 研修・宿舎施設	4
9. 付帯プログラム	4
10. 研修の評価方法	5
別添1. プログラム構成図	6
別添2. 研修日程表	7
別添3. 研修員リスト	10

1. 研修コース名等

(1) コース名

和 文：中央アジア・コーカサステ設マクロ経済コース

英 文：STUDY COURSE IN MACROECONOMICS FOR THE CENTRAL ASIAN AND
CAUCASIAN COUNTRIES

(2) 研修期間：

平成10年1月15日（木）から平成10年2月8日（日）まで（25日間）

(3) 定 員：

11名

2. コースの背景・目的

(1) 背 景

旧ソ連独立国家共同体のうち、中央アジア5か国が93年1月1日にOECD開発援助委員会（DAC）のリストに掲載されたことをうけて、我が国はODAによる当該諸国に対する経済協力を実施することを決定した。このため新国家建設のための人造りの一環として、平成5年度から3年間にわたり当該5か国より合計300名の技術研修員をJICAベースで受入れる事としている。また、平成6年度よりグルジア、アゼルバイジャン、アルメニアのコーカサス地方3か国が含まれることとなった。

本コースは当該諸国政府関係者との協議の結果を踏まえ市場経済化支援を目的とし設定されたコースである。

(2) 目 的

中央アジア・コーカサス諸国の研修員に対し、日本の経済発展における政府の役割、経済政策及びこれらに関係する機関を紹介し、もって中央アジア・コーカサス諸国の経済発展に資することを目的とする。また、以上の目的には財政政策、金融制度、産業組織論、資本市場の機能と役割、経済協力と海外直接投資の役割、環境政策等が含まれる。

3. 主な研修項目・内容・到達目標

(1) 講 義

半日を1コマとする

項 目	講義内容	到達目標	コマ数
G/O	a. 日本の社会と文化	日本の文化・社会について、概要を紹介する	1コマ
概 論 1. 日本とアジアの経済発展の軌跡	a. 日本経済の現状と課題 b. アジアの経済成長 (要因と課題)	市場経済移行後の持続的発展を実現するために必要な基礎知識として、これまでの日本やアジアの経済発展の軌跡と様々な政策課題について理解させる。	2コマ
2. 日本の経済計画と政府の役割	a. 経済企画庁の業務と役割 b. 日本の経済計画と政府の役割 c. 短期経済見通しと経済政策	日本における経済計画及び短期経済見通しと市場経済における政府政策の役割について講談を行う。	3コマ
各 論 1. 財政政策	a. 日本の財政	財政政策の役割と効果について講義を行う。	1コマ
2. 金融政策	a. 日本の金融制度	日本の金融制度の特色と役割について講義を行う。	1コマ
3. 産業政策	a. 日本の中小企業政策 b. 日本の産業組織論	経済安定化後の持続的な経済発展を目指して行われた中小企業政策及び日本の産業組織の特色について講義を行う。	2コマ
4. 資本市場の機能と役割	a. 資本市場の機能と役割	日本の資本市場の機能と役割について解説する。	1コマ
5. 経済協力と海外直接投資	a. 日本の経済協力：海外経済協力基金の業務と役割 b. 経済発展における海外直接投資の役割	日本の経済協力の現状と展望、経済発展における海外直接投資の役割、及び海外経済協力基金の業務と役割について講義を行う。	2コマ
6. 環境保護	a. 日本の環境政策	日本の環境政策について解説する。	1コマ

比較研究とまとめ

1. カントリーレポート

(報告) 最近の各国の経済情勢

2. ディスカッション

3. 中央アジア・コーカサス諸国の市場経済化のあり方

a. 中央アジア・コーカサス諸国の今後の課題

4. 評価会

(2) 見学内容

見学先・訪問先	内容・到達目標	
日本鋼管福山製鉄所	近代的な高炉メーカーを見学	広島県福山市
マツダ㈱	自動車メーカーの現状を知る。	広島県安芸郡
サントリー山崎蒸留所	日本の代表的洋酒等蒸留所を見学	大阪府三島郡

*他の見学先は（別添－2）日程表を参照

4. 研修方法・使用言語

研修日程記載の項目に従い、講義、討論・視察・見学等により研修を実施する。

使用言語は原則としてロシア語とし、必要に応じて日本語からロシア語に通訳することとする。

5. 研修員資格要件・選考

- (1) 相手国政府によって推薦された者。
- (2) 経済政策に携わる中央政府の国家公務員
- (3) 経済学の分野に学問的背景を有する者又は経済政策と経済計画についての適正な経験と知識を有する者。
- (4) 年齢が30才以上40才以下の者。
- (5) 心身ともに健康で、コースを受講するに耐え得る者。妊婦は無資格。
- (6) 軍籍にない者。

6. 実施体制

本コースは国際協力事業団が下記機関の協力を得て実施するものである。

経済企画庁 経済研究所 研究交流部

〒100 東京都千代田区霞が関3-1-1

Tel. 03-3581-0457

財日本国際協力センター 研修監理部研修課

〒163-04 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル 8 F

Tel. 03-5322-2661

財日本総合研究所 特別研究本部

〒102 東京都千代田区一番町10-2 一番町Mビル

Tel. 03-5275-1570

7. 参考資料

JAPAN ALMANAC 1998. Tokyo:Asahi Shimbun Publishing Company

8. 研修・宿泊施設

(1) 国際協力事業団 東京国際研修センター (T I C)

〒151 東京都渋谷区西原2-49-5

Tel. 03-3485-7051(代)

(2) 中国国際センター

〒730 広島市中区紙屋町1-2-29

Tel. 082-247-2851(代)

(3) 京都新都ホテル

〒601 京都市南区西九条院町17

Tel. 075-661-7111(代)

9. 付帯プログラム

(1) ブリーフィング

研修員来日後に財日本国際協力センターが実施する。

ブリーフィングにおいては、研修員登録、研修員のパスポート、ビザの有効期限確認、支給される諸手当の説明、その他の日常生活を送るうえでの諸注意を行う。

(2) プログラム・オリエンテーション

国際協力事業団と経済企画庁、財日本国際協力センター、財日本総合研究所が研修日程の説明を行い、研修員に研修目標、内容等についての共通認識を持たせる。

(3) ジェネラル・オリエンテーション

財日本国際協力センターが日本事情の紹介を目的として実施する。(半日の都内見学を含む。)

(4) エバリュエーション・ミーティング

国際協力事業団、経済企画庁、財日本国際協力センターおよび財日本総合研究所の四者がコース終了時に実施する。

(5) 閉講式

国際協力事業団は、上記エバリュエーション・ミーティング終了後、閉講式を開催し、各研修員に研修修了証 (Certificate) を授与する。また、引き続き歓送会を実施する。

10. 研修の評価方法

本研修コースの成果及び実施状況をより明確に把握するために、本コースの評価を行い、内容の改善を計る。

コース修了時にアンケートを研修員に提出させ、又、エバリュエーション・ミーティングを開き、理解の程度、成果、及び運営面に関する意見を聞く。

別添 1. プログラム構成図

平成 9 年度 中央アジア・コーカサス特設：マクロ経済コース プログラム構成図
 (カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン、アルメニア)

関連事項

G/O 日本の文化と社会
 (見学) 東京都内バスツアー
 日本鋼管 (株)
 マツダ (株)
 サントリー (株)
 広島市内見学
 京都市内バスツアー

総論

1. 日本とアジアの経済発展の軌跡
 (講義) 日本経済の現状と課題
 (講義) アジアの経済成長 (要因と課題)
2. 日本の経済計画と政府の役割
 (講義) 経済企画庁の業務と役割
 (講義) 日本の経済計画と政府の役割
 (講義) 短期経済見通しと経済政策

各論

1. 財政政策
 (講義) 日本の財政
2. 金融政策
 (講義) 日本の金融制度
3. 産業政策
 (講義) 日本の中小企業政策
 (講義) 日本の産業組織論
4. 資本市場の機能と役割
 (講義) 資本市場の機能と役割
5. 経済協力と海外直接投資
 (講義) 日本の経済協力：海外経済協力基金の業務と役割
 (講義) 経済発展における海外直接投資の役割
6. 環境保護
 (講義) 日本の環境政策

(訪問)

海外経済協力基金
 日本貿易振興会
 東京証券取引所

比較研究

&

まとめ

1. カントリーレポート
 (報告) 最近の各国の経済情勢
2. ディスカッション
3. 中央アジア・コーカサス諸国の市場経済化のあり方
 (講義) 中央アジア・コーカサス諸国の今後の課題
4. 評価会

別添2. 研修日程表

平成9年度中央アジア・コーカサス特設：マクロ経済コース日程表(案)

研修期間 平成10年1月15日～2月8日 研修員11名(カザフスタン・ウズベキスタン・キルギスタン・トルクメニスタン・タジキスタン・アルメニア)

1998.1.19現在

月日	曜日	時間	研修内容	講師/担当	研修場所	宿舎
1/15	木		来日			東京国際研修センター (TIC)
1/16	金	9:40～14:30	ブリーフィング	JICA	TIC6	東京都渋谷区西原 2-49-5 Tel. 3485-7051
		15:00～17:00	G.O. (日本の文化と社会)		TIC4	
1/17	土		東京都内バスツアー			
1/18	日					
1/19	月	10:00～11:30	プログラムオリエンテーション	JICA, EPA, JICE, JRI	TIC6	
1/20	火	10:00～12:00	(講義) 経済企画庁の業務と役割	田町 典子 経済企画庁経済研究所研究交流部長	TIC6	
		13:30～15:30	(講義) 短期経済見通しと経済政策	井上 裕行 経済企画庁調整局調整課調査官	TIC6	
1/21	水	10:00～12:00	(講義) 日本の中小企業政策	永谷 安賢 中小企業庁指導部長	TIC6	
		13:30～15:30	(講義) 日本経済の現状と課題	林 幸宏 経済企画庁調査局内国調査第一課課長補佐	TIC6	
1/22	木	10:00～12:00	(講義) 経済計画と政府の役割	片山 朗 経済企画庁総合計画局計画課課長補佐	TIC6	
		13:30～15:30	(講義) アジアの経済成長 (要因と課題)	原田 泰 経済企画庁調査局海外調査課長	TIC6	
1/23	金	10:00～12:00	(講義) 日本の財政	橋本 眞吾 経済企画庁調査局内国調査第一課財政金融班班長	TIC6	
		13:30～15:30	(講義) 日本の金融制度	福永 憲高 経済企画庁調査局内国調査第一課課長補佐	TIC6	
1/24	土					
1/25	日					
1/26	月	AM	研修旅行 (移動) 東京→福山			福山市
		14:00～16:00	(見学) 株式会社日本鋼管福山製鉄所	(窓口) 鉄鋼事業部鉄鋼統括部 山本氏		
			(移動) 福山→西条			

(8)

月日	曜日	時間	研修内容	講師/担当	研修場所	宿舎
1/27	火	10:00~11:00	(見学) マツダ株式会社	(窓口) 総務部総務グループ 加藤氏	広島	中国国際センター 広島市中区紙屋町 1-2-29 Tel. 082-247-
		PM	(見学) 原爆記念館等			
1/28	水	AM	(移動) 東広島→京都		京都	2851 京都新都ホテル
		14:00~	(見学) サントリー山崎蒸溜所	(窓口) PR室 岸本氏		
1/29	木	AM	京都市内バスツアー		TIC6	南区西九条院17 TEL075-661-7111
		PM	(移動) 京都→東京			
1/30	金	10:00~12:00	(講義) 経済発展における海外直接投資の役割	西山 洋平 輸銀海外投資研究所主任研究員	JETRO	
		14:00~16:00	(訪問) 日本貿易振興会	(窓口) JETRO海外調査部ロシア東欧チーム下社(シヤシロ)氏		
1/31	土					
2/1	日					
2/2	月	10:00~17:00	カントリーレポート発表	(チエマン) 西藤 冲 日本総合研究所 (コメンター) ツエリツシェフ 新潟経営大学教授 入柿 秀俊 OECF業務第3部業務第2課長 梶田 朗(アキラ) (株)日債銀総合研究所開発研究部副主任研究員 岩崎 一郎 一橋大学大学院経済学研究科院生 勝見 博 経済企画庁経済研究所研究交流部研修企画官	TIC15	
2/3	火	10:00~12:00	(講義) 日本の産業組織論	ツエリツシェフ 新潟経営大学教授	TIC6	
		14:00~15:30	(訪問) 東京証券取引所	東証広報室(広瀬氏)	東証	

月日	曜日	時間	研修内容	講師/担当	研修場所	宿舎
2/4	水	10:00～12:00	(訪問・講義) 海外経済協力基金の業務と役割	田中 総東 OECF業務第3部業務第2課	OECF 8階大会議室	
		14:00～16:00	(講義) 資本市場の機能と役割	菊地 正俊 (株)大和総研投資調査部投資調査課課長		
2/5	木	10:00～12:00	(講義) 日本の環境政策	竹本 和彦 環境庁地球環境部調査官	TIC6	
		13:30～15:30	(講義) 中央アジア・コーカサス諸国の今後の課題	安田 靖 野村総合研究所理事	TIC6	
2/6	金	10:00～11:30	評価会	JICA, EPA, JICE, JRI	TIC6	
			閉講式			
			歓送パーティー			
2/7	土		帰国			
2/8	日					

別添 3. 研修員リスト

LIST OF PARTICIPANTS



マクロ経済 (中央アジア・コーカサス)

January 15, 1998 ~ February 8, 1998




1	 ARMENIA アルメニア	Mr. AMIRJANYAN Paruyr アミリヤニャン May 13, 1974 財務経済省債務管理局局長	D9702193	Mailing Address 1 Government House Yerevan 375010, ARMENIA	Head of Debt Management Dept., Ministry of Finance and Economy (1997~)
2	 ARMENIA アルメニア	Ms. SARGSYAN Susanna サルグシヤン February 24, 1975 財務経済省課長	D9702194	Mailing Address 1 Government House Yerevan 375010, ARMENIA	Head of Division, Ministry of Finance and Economy (1997~)
3	 KAZAKHSTAN カザフスタン	Ms. AKHMETZHANOVA Gulnar T. アフメトジャノフ February 15, 1960 財務省予算局課長	D9710057	Mailing Address apart.73, house 170, Baizakov str., Almaty, KAZAKHSTAN	Head of Division, Budget dept., Ministry of Finance (1997~)
4	 KAZAKHSTAN カザフスタン	Mr. KOSZHANOV Turekhan コスジャノフ April 12, 1949 大統領府付属持続的発展国家評議会事務局長	D9702189	Mailing Address Almaty, 480096 Bayzakov st.170, ap.81 KAZAKHSTAN	Head, Secretariat of the National Council for Sustainable Development (1997~)
5	 KAZAKHSTAN カザフスタン	Ms. RUBASHINA Irina A. ルバーシナ February 15, 1967 財務省マクロ経済・財政政策局財政戦略課長	D9702190	Mailing Address apart.86, house 141, Abai avenue, Almaty city, KAZAKHSTAN	Head, Division of Finance Statistics, Dept. of Macroeconomic and Budget Policy, Ministry of Finance(1997~)
6	 KYRGYZ キルギス	Mr. ABDYLDAEV Erlan B. アブドイルダエフ July 21, 1966 外務省第一政治局次長	D9702188	Mailing Address Bishkek, Abdymomunova 57 Ministry of Foreign Affairs Kyrgyz Republic	Deputy Director, First Political Dept., Ministry of Foreign Affairs (1997~)
7	 KYRGYZ キルギス	Ms. ASANALIEVA Nazgul B. アサナリエフ June 25, 1974 国家投資委員会付属海外投資庁上級専門員	D9702187	Mailing Address 720874 Bishkek, 58-a Erkindik blrd., The Agency on Foreign Investments under GOSKOMINVEST Kyrgyz Republic	Senior Specialist, The Agency on Foreign Investments under the State Commission of the Kyrgyz Republic of Foreign Investments and Economic Assistance (1997~)
8	 TADZHIKISTAN タジキスタン	Mr. ODINAYEV Nazar S. オディナエフ September 10, 1962 経済・対外経済関係省局長	D9702197	Mailing Address Dushanbe, Borbad str. 72, fl.2 TADZHIKISTAN	Chief of Department, Ministry of Economy and External Economic Relations (1996~)

LIST OF PARTICIPANTS

JICA
JAPAN INTERNATIONAL
COOPERATION AGENCY
国際協力事業団

マクロ経済（中央アジア・コーカサス）

January 15, 1998 ~ February 8, 1998

9	 TADZHIKISTAN タジキスタン	Mr. SAIFIEV Marouf サイフィエフ January 23, 1962 課長	Mailing Address: Dushanbe, Rudaki-av. 80 TADZHIKISTAN D9702196 Chief of Division, Government(1996-)
10	 TURKMENISTAN トルクメニスタン	Mr. ANNAMUKHAMEDOV Arslan アンナムハメードフ September 20, 1968 税務監査本庁対外関係局局長	Mailing Address: The Main State Tax Inspectorate of Turkmenistan 11 Pushkin str. Ashgabat TURKMENISTAN D9702195 Head of Foreign Relations Div., The Main State Tax Inspectorate of Turkmenistan (1997-)
11	 UZBEKISTAN ウズベキスタン	Ms. KASIMOVA Saodat カシモワ August 13, 1958 マクロ経済・統計省課長	Mailing Address: Tashkent, Uzbekistanskaya 45 a, Ministry of Macro Economics and Statistics UZBEKISTAN D9702191 Chief of Division, Ministry of Macro Economics and Statistics (1997-)

平成9年度

(第5回)

中央アジア特設農産物市場経済コース

実 施 要 領

平成9年8月

国 際 協 力 事 業 団

北海道国際センター(札幌)

目 次

1. コース名等	1
2. コースの背景・目的	1
3. 研修項目・内容・到達目標	2
4. 研修方法・使用言語	5
5. 研修員参加資格要件	5
6. 研修実施体制	5
7. 使用教材及び機材	6
8. 研修・宿舎施設	6
9. 研修付帯プログラム	6
10. 研修の評価	7
11. 平成9年度(第5回)応募, 選考結果	8
付表1. 研修日程表(案)	9
付表2. 研修員名簿	11
付表3. 受入機関連絡先一覧表	12
付表4. 研修員受入実績リスト	13

1. コース名等

(1) コース名

和 文：中央アジア特設農産物市場経済コース

英 文：THE FARM PRODUCE MARKETING FOR THE CENTRAL ASIAN COUNTRIES

(2) 全体期間

平成9年8月20日（水）～平成9年9月10日（水）

(3) 研修期間

平成9年8月25日（月）～平成9年9月8日（月）

(4) 定 員

10名

(5) 割 当 国

ウズベキスタン，カザフスタン，キルギスタン，タジキスタン，トルクメニスタン

(6) 関係官庁

農林水産省

(7) 研修機関

北海道農政部

2. コースの背景・目的

(1) 背 景

1991年ソ連解体により独立した中央アジア5ヵ国は中央による計画経済から市場経済への移行過程にあり，農産物分野での市場経済システムの整備，特に集団農場型農業経営の再編成とその円滑な活動は各国にとって緊急を要する課題となっている。

これら農産物市場経済分野の協力要請を受けたわが国は，中央アジア5ヵ国での農産物市場経済システムの確立・整備計画を支援するため，当該分野におけるわが国の現状を講義と視察を通して紹介することを主な内容とした本研修コースを実施することを計画した。

(2) 目 的

本コースは農産物分野における市場経済メカニズムを概念として理解し，さらに実際の運営形態を広く学ぶことを目的とする。

従って研修は農林水産省及び北海道を中心に，協同組合，民間関連企業及び個人経営家により行われる。

3. 研修項目・内容・到達目標

研修コースは講義，視察，総合討論会により構成され，短期間に日本農業・地域農業及び農業経済についてその概要を研修員に理解してもらいやすいように各項目が配列されている。

1) 講義

研修テーマ	講義項目	内容及び到達目標
I. 日本農業及び農業をとりまく状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日本農業と北海道農業の特色 ・農地改革と個人農の役割 ・日本の農産物流通の現状と課題 ・日本の食品産業の概要 	研修員に各項目についての基本的な認識をもってもらうことにより，自国との比較の上で，よりよく日本農業を理解してもらう手助けとする。
II. 地域農業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道立農業試験場の業務と役割 ・普及センターの業務と役割 ・北海道農業の営農システム ・農協組織とホクレンの役割 ・十勝農業の概要 ・農協の業務と役割（士幌町） 	地域農業振興に関し，現場に即したサポートシステムを紹介することにより，地域では具体的にどのような農業振興が図られているのか，地域農業経済はどのように機能しているのかを理解してもらうことを目標とする。
III. 地域農産物流通	<ul style="list-style-type: none"> ・中央卸売市場の業務と役割 ・大型量販店の業務と役割 	市場経済における農産物流通システムを紹介することにより，研修員が自国においてシステムを整備する際の参考情報を提供する。

2) 視察・見学先

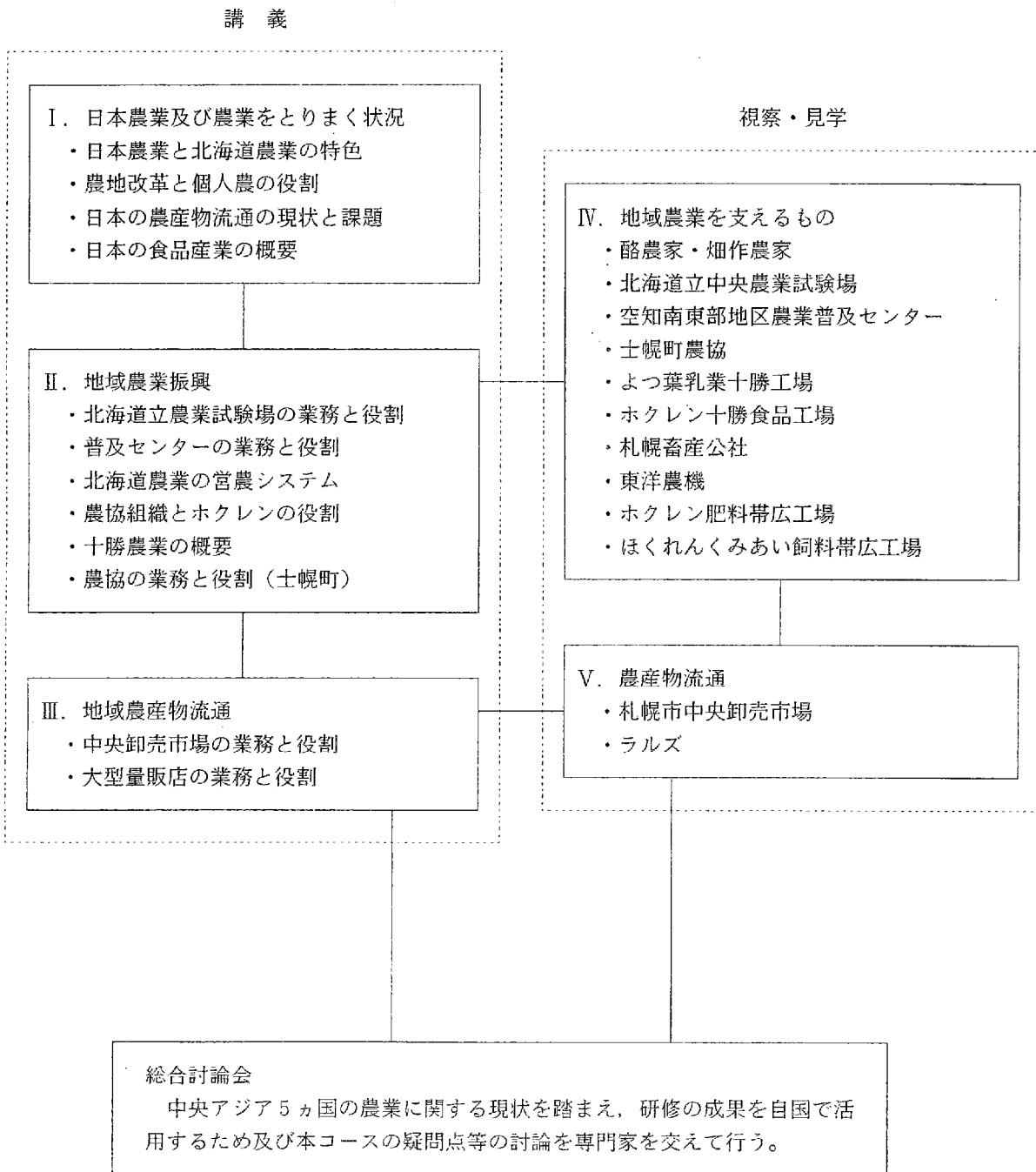
研修テーマ	見学先	内容及び到達目標
IV. 地域農業を支えるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・酪農家・畑作農家 	農業の実際を見学することにより，日本農業のイメージを具体化する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道立中央農業試験場 ・空知南東部地区農業普及センター ・士幌町農協 	<p>地域農業を実際にサポートする機関を訪問し，地域の農民といかに連携をとり，農業を振興しているのかを学ぶ。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・よつ葉乳業(株)十勝工場 ・ホクレン十勝食品工場 ・(株)札幌畜産公社 	<p>地域農産物を利用した加工施設を視察することにより，農業の新しい展開の可能性を考える。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋農機(株) ・ホクレン肥料帯広工場 ・ほくれんくみあい飼料(株)帯広工場 	<p>現代農業を直接支える資機材の供給元を視察することにより，農業の効率化・近代化を考える。</p>
V. 農産物流通	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市中央卸売市場 ・(株)ラルズ 	<p>市場の実際を見学し，効率的な農産物の流通体系について学ぶ。</p>

3) 総合討論会

国別発表会による各国研修員の自国農業の状況を踏まえた上で、本コース全体研修の中における質問、疑問点等に関し、学識専門家の助言を得ながら、各国農業の問題解決方法を考察する。

《カリキュラム構成図》



4. 研修方法・使用言語

研修日程表記載の研修項目に従い、講義・討論・視察・見学等により研修を実施する。

研修は全て通訳者を介した日本語からロシア語への通訳による。

但し、(財)日本国際協力センター所属のロシア語の研修監理員も同行し、日常の通訳業務等にある。

5. 研修員参加資格要件

- (1) 所定の手続きに基づく各国政府推薦者であること。
- (2) 中央及び地方自治体もしくは集団農場において農産物流通業務に3年以上従事している者。
- (3) 大学卒業もしくは同等の技術資格を有する者。
- (4) 年齢が40歳以下の者。
- (5) 心身ともに健康であり、女性については妊娠していない者。
- (6) 軍に服役していない者。

6. 研修実施体制

本研修コースは北海道国際センター（札幌）が(財)日本国際協力センターに研修運営を委託し、農林水産省・北海道農政部の協力を得て実施する。

(1) 研修実施機関

北海道国際センター（札幌）

所在地：〒003 札幌市白石区本通16丁目南4-25

TEL. 011-866-8393（研修課） FAX. 011-866-8382

(2) 研修受入機関

① 北海道農政部

所在地：〒060 札幌市中央区北3条西6丁目

TEL. 011-231-4111 FAX. 011-232-4126

② 農林水産省経済局技術協力課

所在地：〒100 東京都千代田区霞が関1-2-1

TEL. 03-3502-8111

7. 使用教材及び機材

(1) 研修用のテキスト

露文によるテキストを用意し、配付します。

(2) 研修用機材

必要に応じて、OHPやビデオなど理解を促すために各種視聴覚機材を使用する。

8. 研修・宿泊施設

国際協力事業団 北海道国際センター（札幌）（略称：HICS）

〒003 札幌市白石区本通16丁目南4-25

TEL. 011-866-8383（代） FAX. 011-866-8382

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

研修員来日の翌日に㈱北方圏センターが実施する。

ブリーフィングにおいては、研修員登録、研修員のパスポート、ビザの有効期間確認、支給される諸手当の説明、その他日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) プログラム・オリエンテーション

北海道農政部がコース日程の説明を行い、研修員に研修目標、内容などについての共通認識を持ってもらうようにする。

(3) ジェネラル・オリエンテーション

㈱北方圏センターが日本事情の紹介を目的とし実施する。

（半日の市内見学を含む。）

(4) 閉講式

国際協力事業団北海道国際センター（札幌）は、本コース終了後、閉講式を開催し、各研修員に研修修了証書（Certificate）を授与する。

10. 研修の評価

(1) 評価の目的

本コースの実施状況を明確に把握するとともに、コース目標に対する研修成果を明らかにし、改善すべき点について検討する。

(2) 評価の方法

最終評価会（研修日程終了日）にて、研修員は研修効果、研修内容の自国での適用性等に関する意見の発表を行い、研修員側からのコース評価を明らかにする。

本評価会には、北海道国際センター（札幌）、道農政部、(財)日本国際協力センターにより実施され、JICA担当者・受入機関担当者・研修員の三者が参加する。

また、研修員の帰国後（原則として1カ月以内）に、各評価会での討議内容・研修員記入のJICA所定の様式による質問書・研修監理員による報告書等をもとに、JICA・受入機関による反省会を行い、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、これらの結論をもって翌年度のコース改善に向けての対応方針を導き出すこととする。

11. 平成9年度（第5回）応募，選考結果

定員10名の割当に対し，8名の応募があり，選考基準に基づき資格要件等を審査の結果，次のとおり8名の受入れを決定しました。

	国名	氏名 (研修員番号)	生年月日 (年齢) 性別	選考結果
	最終学歴 職			
1	カザフスタン KAZAKHSTAN	Ms. Bissenova SAULE (D-97-00172)	JAN. 24. '56 (41) 女	○
	Ph. D Economic Science The KAZAK State Agriculture management Academy Almaty KAZAKSTAN (1989 1992) Trainer The Insitute for Retraining and Qualification Improvement of Civil Servants under The Government of The Republic KAZAKSTAN (1995)			
2	カザフスタン KAZAKHSTAN	Mr. Botanov Samat BALTABEKOVICH (D-97-00173)	OCT. 07. '66 (30) 男	○
	Technologist Food Industry Techology Zhambyl Food Industry Technology Institute Almaty, KAZAKSTAN (1983 1990) Head of section, Industrial Association "Temis" (1993)			
3	キルギス KYRGYZ	Mr. Tazhibaev RASHID Minibaevich (D-97-00176)	AUG. 07. '59 (37) 男	○
	Animal Breeding Kyrgyz Agricultural Institute Kurgyz Republic (1978 1983) President of Famer's Association (1996)			
4	キルギス KYRGYZ	Mr. Melis ESHPEROV (D-97-00177)	DEC. 19. '64 (32) 男	○
	Economics & Organization of Agricultural Industry, Economist Kyrgyz Agricultural Institute Bishkek, Kyrgyzstan (1982 1987) Leader Kanat Farm Issyk -Kul Oblast (1995)			
5	タジキスタン TADZHIKISTAN	Mr. Zokirov Safarali ODINAEVICH (D-97-00180)	MAR. 15. '49 (48) 男	○
	Vetelinan Doctor Tajic Agriculture Institute Dushanbe (1968 1973) Director Tibalay Association Muminobod Reg Khatlon Area Republic of Tajikistan (1980)			
6	タジキスタン TADZHIKISTAN	Mr. LAKIROV Mahmadoir (D-97-00181)	JLY. 05. '56 (41) 男	○
	An Engineer of the use of Land Organization of the use of Land Tselinograds Agricultural Institute Tselinograd, Kazakstan (1980 1985) The Lead Specialist The Government Department of Agroindustrial Complek (1992)			
7	ウズベキスタン UZBEKISTAN	Mr. Yuldash Toulashovich ARSHABAEV (D-97-00174)	AUG. 01. '53 (44) 男	○
	Economist and Organizer of Agricultural Production Economics and Organizing of Agriculture Agricultural Institute Tashkent, Republic of Uzbekistan (1972 1977) Chief Specialist Board of Improvement of organizing and Payment of Labdur and Social Protection, Ministry of Agriculture and Water Resources (1994. 4)			
8	ウズベキスタン UZBEKISTAN	Mr. Baymuratov Anvar RADJAPOVICH (D-97-00175)	MAR. 04. '43 (54) 男	○
	Engineer of Agricultural Production Management of Agricultural Production, Agronomy Tashkent institute of Engineers of Irrigation and Mechanization of Agriculture Tashkent, Uzbekistan (1960 1965) Deputy Chairman Surhandarya Regional Association of Private and Dehkan Farms (1997.5)			

付表1. 研修日程表(案)

平成9年度中央アジア特設農産物市場経済コース日程(案)

研修期間 平成9年8月20日～9月10日 研修員数10名

月	日	曜日	時間	研修内容	講師 / 担当	研修場所	宿舎
8/20		水		来日			北海道国際センター(札幌)
	21	木	15:00-17:00	ブリーフィング	㈱北方圏センター	センターブリーフィングルーム	札幌市白石区本通
	22	金	10:00-12:00	(G.O.) 日本の行政	北海道銀行道銀地域企業経営研究所	センターセミナー2F・9号室	16丁目南4-25
13:00-15:00			(G.O.) 日本の経済	"	"	TEL: 011-866-8383	
15:15-16:45			(G.O.) 日本の社会と日本人	"	"	FAX: 011-866-8282	
17:00-			帰国便打ち合わせ	㈱北海道ツアーシステム	"		
	23	土	10:00-	市内バスツアー	㈱北方圏センター	札幌市内	
	24	日		休日			アーキシティーホテル
	25	月	9:30-10:00	開講式	JICA北海道国際センター(札幌)	センターオリエンテーションルーム	T004
10:00-12:00			カントリーレポート発表	"	"	札幌市厚別区厚別中央	
13:30-16:00			(講義) 北海道農業の特色	北海道農政部農政課課長補佐 富樫 秀文	"	2条5丁目6番2号	
	26	火	9:30-12:00	(講義) 日本の農産物流通の現状と課題	農林水産省食品流通局企業振興課課長補佐 瀬戸 一美	センター2F・会議室1	TEL: 011-890-2525
14:00-16:30			(講義) 日本の食品産業の概要	農林水産省食品流通局商業課課長補佐 西野 豊秀	"	FAX: 011-890-2520	
	27	水	9:30-12:00	(講義) 農地改革と個人農の役割	北海学園大学経済学部教授 大沼 盛男	センター2F・会議室1	
14:00-16:30			(講義) 農協組織とホクレンの役割	ホクレン農業協同組合連合会開発総会課長 矢野 実	"		
	28	木	9:30-12:00	(講義) 道立農業試験場の業務と役割	北海道立中央農業試験場企画情報室長 田村 千秋	中央農業試験場大会議室	
13:30-16:00			(講義) 普及センターの業務と役割	空知南東部地区農業改良普及センター所長 沢辺 外喜雄	農業改良普及センター		
	29	金	7:00-8:00	(見学) 札幌市中央卸売市場	札幌市中央卸売市場長 齋藤 勲	札幌中央卸売市場	
9:00-11:00			(講義) 中央卸売市場の業務と役割	"	"	"	
14:00-16:30			(講義) 北海道農業の営農システム	㈱北海道地域農業研究所常務理事 富田 義昭	センター2F・会議室1		
	30	土		休日			
	31	日	10:12-13:08	移動(札幌→帯広) スーパー十勝3号			

月 日	曜日	時間	研修内容	講師 / 担当	研修場所	宿舎
9/1	月	9:30-11:30	(講義) 十勝農業の概要と見学先解説	十勝支庁農務課農務課長 斎藤 薫	帯広グランドホテル・会議室白樺	帯広ピアセブン 〒080 TEL: 0155-27-2700
		13:00-14:30	(見学) ホクレン十勝食品工場 (幕別町)	ホクレン十勝食品工場業務課長 高野 鏡朗	ホクレン十勝工場	
		15:00-15:40	(見学) 畑作農家 (幕別町)	十勝支庁農業振興部		
		16:00-16:40	(見学) 酪農家 (幕別町)		ホクレン十勝工場	
2	火	9:30-11:30	(見学) よつ葉乳業十勝工場 (音更町)	よつ葉乳業十勝工場調査役 山本 純三	よつ葉十勝工場	FAX: 0155-27-2900
		13:20-14:20	(講義) 士幌町農協の業務と役割	士幌町農業協同組合	士幌町農協	
		14:30-15:30	(見学) 士幌町農協農産物集出荷・加工施設	"		
3	水	9:30-11:30	(見学) 東洋農機 (帯広市)	東洋農機常務取締役 山田 政功	東洋農機	
		13:00-14:30	(見学) ホクレン肥料帯広工場 (芽室町)	ホクレン肥料帯広工場製造課長 田中 辰夫	ホクレン帯広工場	
		14:40-16:20	(見学) かわくみあい飼料帯広工場 (芽室町)	ホクレンくみあい飼料帯広工場次長 近藤 稔	ほくれん帯広工場	
4	木	9:14-11:26	移動 (帯広→札幌) 大空5号			アーキシティーホテル 〒004
		13:30-15:30	(見学) 北海道畜産公社	㈱北海道畜産公社総務課長 岡部 安博	札幌畜産公社	
5	金	10:00-11:30	(講義) 大型量販店の業務と役割	㈱ラルズ副社長 千場 一正	ラルズ会議室	札幌市厚別区厚別中央 2条5丁目6番2号 TEL: 011-890-2525
		13:30-16:00	(見学) ラルズ店舗		ラルズ店舗	
6	土		休日			FAX: 011-890-2520
7	日		休日			
8	月	9:30-12:00	総合討論会	北海道大学農学部農業経済教授 黒河 功	センターホール2F・7,8号室	
		13:30-14:30	評価会	JICA北海道国際センター (札幌)	センターホール2F・7,8号室	
		15:00-15:30	閉講式	農水省、北海道農政部、JICA、JICE	センターオリエンテーションホール	
		16:00-	フェアウェル・パーティー	"	センターホール2F・7,8号室	
9	火	9:00-10:30	札幌→東京 JAL504			ホテルギンモンド
10	水		帰国日			TEL: 03-3666-4111

付表2. 研修員名簿

LIST OF PARTICIPANTS IN "THE FARM PRODUCE MARKETING FOR THE CENTRAL ASIAN COUNTRIES FY1997"

(平成9年度中央アジア農産物市場経済コース研修員名簿 J97-10048)

国際協力事業団
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Duration: Aug. 20~Sep. 10, 1997

COUNTRY	N A M E	DATE OF BIRTH	PRESENT OCCUPATION	EDUCATIONAL RECORD	ADDRESS FOR CORRESPONDENCE
Kazakhstan (カザフスタン)	Ms. Bissenova SULE ビセノバ・サウル	Jan. 24, 1956 (D-97-00172)	Trainer, The Institute for Retraining and Qualification Improvement of Civil Servants, The Government of the Republic of KAZAKHSTAN 政府公務員資格再教育改善機関指導官	The Kazak State Agriculture Management Academy (1989 - 1992 経済学, Ph. D)	Aimanova 101, Flat 30, Almaty, 480124 Kazakhstan
Kazakhstan (カザフスタン)	Mr. Samat Baltabekovich BOTANOV サマト・バルタベコビチ ・ボタノフ	Oct. 07, 1966 (D-97-00173)	Head of section, Republican Industrial Assosiation "Temis" "テミス" 政府産業協会課長	Zhombyl Food Industrial Technology Institute (1988 - 1990 食品産業技術学)	15, Republic Square, Almaty, 480065 Kazakhstan
Kyrgyz (キルギス)	Mr. Tazhibaev RASID Minbaevich タジバエフ・ラシト ミンバエビチ	Aug. 07, 1959 (D-97-00176)	President, Farmers' Association 農民協会代表	Kyrgyz Agricultural Institute (1978 - 1983 家畜育種学)	"Tuleitan" District, Osh City, Kyrgyz
Kyrgyz (キルギス)	Mr. Melis ESHPEROV メリス・エシペロフ	Dec. 19, 1964 (D-97-00177)	Leader, "Kanat" Farm Issyk-Kul Oblast イシク・クル州カナト農場リーダー	Kyrgyz Agricultural Institute (1982 - 1987 農業経済学)	38, Pionerskaya St. V. Berkut Ton rayon, Issyk-kul Oblast, Kyrgyz
Tadzhikistan (タジキスタン)	Mr. Safarali Odinaevich ZOKIROV サファラリ・オジナエビチ ・ゾキロフ	Mar. 15, 1949 (D-97-01880)	Director, Tibalay Association Muminobod Reg. Khatlon Area, Republic of Tajikistan 政府ムンバト地方ハトロン地区ハライ協会部長	Tajic Agricultural Institute (1968 - 1973 獣医学, VMD)	Tebalay Association Muminobod Reg. Tadzhikistan
Tadzhikistan (タジキスタン)	Mr. Mahmadoir LAKIROV マフマドトイル・ラキロフ	Jul. 05, 1956 (D-97-00181)	Chief Specialist, The Government Department of Agroindustrial Complex 政府農産業複合体主任専門官	The Linograds Agricultural Institute (1980 - 1985 土地利用工学)	13, Giprozem, Flat 6, Dushambe, Tadzhikistan
Uzbekistan (ウズベキスタン)	Mr. Yuldash Toulashovich ARSHABEV ユルダシ・トウラシヨビチ アルシャバエフ	Aug. 01, 1953 (D-97-00174)	Chief Specialist, Board of Improvement of Organizing and Payment of Labour and Social Protection, Ministry of Agriculture and Water Resources 農業水利省動労組織局主任専門官	Agricultural Institute (1972 - 1977 農業組織化経済学)	25, Tukimachi St., "Tukimachi" State Farm, Zangiata District, Tashkent, Uzbekistan
Uzbekistan (ウズベキスタン)	Mr. Anvar Radjapovich BAYMURATOV アンバル・ラジャポビチ ・バイムラトフ	Mar. 04, 1943 (D-97-00175)	Deputy Chairman, Surhandarya Regional Association of Private and Dehkan Farms スルハンダリ州個人副業経営協会会長	Tashkent Institute of Engineering of Irrigation and Mechanization of Agriculture (1960 - 1965 農産物管理学)	17 Roshidov St., Village Uchkezil, Termez District, Surhondorya Province, Uzbekistan

付表 3. 受入機関連絡先一覧表
受入機関連絡先一覧表

(順不同)

受 入 機 関 名	住 所	電 話
農林水産省経済局	〒100 東京都千代田区霞が関1-2-1	03-3501-8111
北海道農政部農政課	〒060 札幌市中央区北3条西6丁目	011-231-4111
北海道十勝支庁	〒080 帯広市東3条南3丁目	0155-24-3111
北海道大学農学部	〒060 札幌市北区北9条西9丁目	011-716-2111
北海学園大学	〒062 札幌市豊平区旭町4丁目	011-841-1161
札幌中央卸売市場	〒060 札幌市中央区北12条西20丁目	011-611-3111
ホクレン農業協同組合連合会	〒060 札幌市中央区北4条西1丁目	011-222-7856
ホクレンくみあい飼料(株)帯広工場	〒082 河西郡芽室町東芽室基線2番2	0155-62-2555
ホクレン肥料(株)帯広工場	〒082 河西郡芽室町東芽室	0155-62-4556
ホクレン十勝食品工場	〒089-06 中川郡幕別町字草岡63-1	0155-54-4451
士幌町農業協同組合	〒080-12 河東郡士幌町字士幌 西2線159	01564-5-2311
(株)札幌畜産公社	〒061-32 江別市角山584	011-384-3231
よつ葉乳業(株)十勝工場	〒080-01 河東郡音更町新通20-3	0155-42-2121
(社)北海道地域農業研究所	〒060 札幌市中央区北4条西7丁目	011-281-2566
(株)ラルズ	〒062 札幌市豊平区平岸1条1丁目	011-813-2525
東洋農機(株)	〒080-14 帯広市西22条北1丁目2-5	0155 37 3191
北海道立中央農業試験場	〒069-13 夕張郡長沼町東6線北15号	01238-9-2001
空知南東部地区 農業改良普及センター	〒069-15 夕張郡栗山町中里67	01237-2-2358

付表4. 研修員受入実績リスト

1. 応募／選定（受入）人数

	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	年度	累計
応募数	12	12	14	12	8		58
受入数	12	10	12	11	8		63

2. 受入研修員の出身国

○男性 ●女性

国名	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	年度	累計
(中央アジア地域)							
カザフスタン	○2	○	○2 ●	○3	○●		11
キルギス	○	○2	○2	○2	○2		9
タジキスタン	○3	○3	○2	○2	○2		12
トルクメニスタン	○3	○2	○2	○●			9
ウズベキスタン	○3	○	○3	○2	○2		11
(コーカサス諸国)							
アルメニア		○					1
計	5カ国 12名	6カ国 10名	5カ国 12名	5カ国 11名	4カ国 8名	カ国 名	6カ国 63名

平成9年度

中央アジア特設環境行政コース
実 施 要 領

平成10年3月

国際協力事業団
北海道国際センター(札幌)

目 次

1. コース名等	1
2. コース背景・目的	1
3. 到達目標	2
4. 研修項目, 研修方法	2
5. 研修員参加資格要件	6
6. 研修実施体制	6
7. 研修機関	6
8. 教材リスト	7
9. 宿泊施設	7
10. 研修付帯プログラム	8
11. 研修の評価方法	9
12. 平成9年度(第5回)応募, 選考結果	10
付表1. 日程(案)	12
付表2. 研修員リスト	14
付表3. 年度別研修員受入実績表	16

1. コース名等

(1) コース名

和 文：中央アジア特設環境行政コース

英 文：The Study Course in Environmental Administration
for the Central Asian Countries

(2) 受入期間

平成10年3月4日（水）～平成10年3月24日（火）（16日間）

(3) 研修期間

平成10年3月9日（月）～平成10年3月23日（月）（11日間）

(4) 定 員

10名

(5) 割当国

5カ国（カザフスタン(2)、キルギス(2)、タジキスタン(2)、トルクメニスタン(2)
ウズベキスタン(2)）

(6) 研修機関

札幌市環境局環境保全部

2. コース背景・目的

(1) 背 景

旧ソ連独立国家共同体のうち、1993年1月1日にOECD開発援助委員会（DAC）のリストに掲載された中央アジア5カ国を対象に、わが国は新国家建設のための人づくりの一環として、1992年度から技術研修員の受入を開始した。

これらの隣接する5カ国では、かつてわが国が経験した環境問題に現在直面しており、その取り組みにおいては体制が十分に整えられていない状況にある。

本コースは環境行政の中でも特に都市環境問題を主題に日本の環境行政の実際を紹介することにより、これら中央アジアの国々が抱える問題について、その解決の一助とすることを目的として開設された。

(2) 目的

本研修においては、環境行政、あるいは実務に携わるマネージャークラスの人を対象に、「国政レベルでの環境行政」「地方自治体における各種環境汚染対策」「企業における公害対策」といったテーマを主軸として講義、現場視察等を行い環境保全の法規制や具体的な公害防止対策を体系的に紹介し、さらにカントリーレポート発表、意見交換等により参加研修員の当該分野に関する専門知識を深めてもらうことを目的とする。

3. 到達目標

- ① 環境行政に関する基礎知識を習得すること。
- ② 汚染防止に関する必要知識を習得すること。
- ③ 汚染防止の現在の方法を理解すること。
- ④ 政府と地方自治体の役割と働きについて理解すること。

4. 研修項目、研修方法（詳細はカリキュラム一覧参照）

(1) 研修項目

- ① 日本の環境行政
- ② 地方自治体の環境保全行政
- ③ 札幌市の環境整備行政
- ④ 企業における公害対策

(2) 研修方法・使用言語

研修日程記載の研修項目に従い、講義・討論・見学等により研修を実施する。

研修は全て、通訳者による日本語から露語への通訳による。

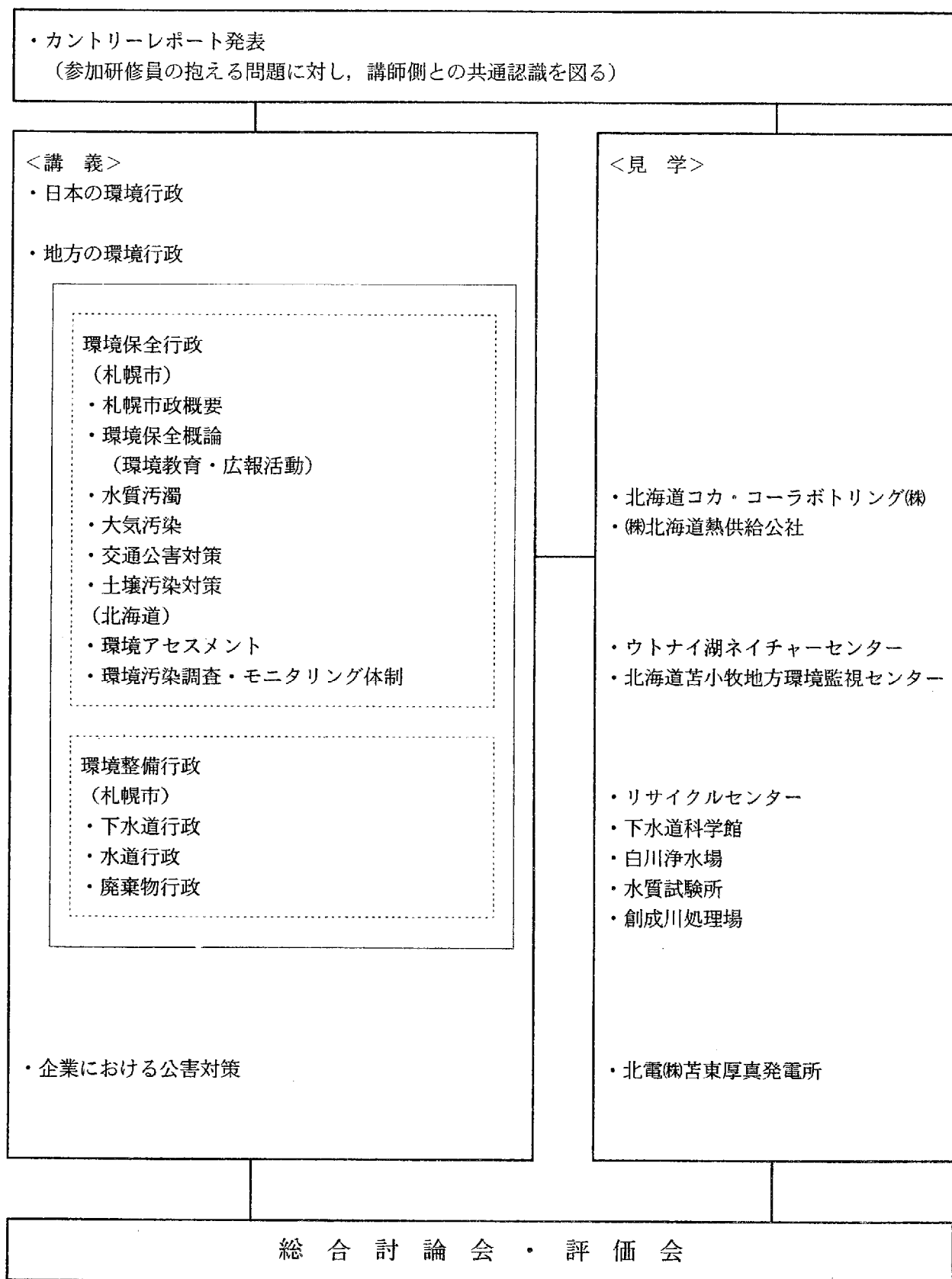
但し、露語の研修監理員も同行し、日常の通訳業務等にあたることとする。

研修カリキュラム一覧（構成図含む）

	項目	科目構成	実施日数		講義・討論・見学項目の具体的な内容
			講義	視察	
(1)	日本の環境行政等	①日本の環境行政の概要	1.0		国レベルの環境行政対策の仕組みを行政体系等の面から学ぶ。
		②プログラムオリエンテーション	0.5		全体プログラムの説明を行う。
小 計			1.5		
(2)	総 論	①札幌市政概要	0.25		札幌市の行政の仕組みを環境行政を中心に、法体系、行政組織等の面から学ぶ。
		②環境保全概論	0.25		・歴史的な経緯を踏まえ、法制度、行政機構、施策体系等の内容からなるわが国の環境保全対策の全体像を学ぶ。
小 計			0.5		
(3)	地方自治体の環境保全行政	①大気汚染対策	1.0	0.5	地方レベルの環境保全対策の歴史、仕組みを法令等の規制、行政体系等の面から学ぶ。 ・札幌市の大気汚染対策の歴史、仕組み、現状を学ぶ。 （見学先：(株)北海道熱供給公社中央熱製造所）
		②水質汚濁対策	1.0	0.5	・札幌市の水質汚濁対策の歴史、仕組み、現状を学ぶ。 （見学先：北海道コカ・コーラボトリング(株)本社工場）
		③交通公害対策	0.5		・札幌市の交通公害対策の歴史、仕組み、現状を学ぶ。
		④地下水汚染・土壌汚染の場農業対策	0.5		・土壌汚染対策の歴史、仕組み、現状を学ぶ。
		⑤環境汚染調査・モニタリング体制		0.5	・北海道における環境アセスメントの仕組み、現状を学ぶ。 （見学先：北海道苫小牧地方環境監視センター）
小 計			3.0	1.5	
(4)	札幌市の環境整備行政	①札幌市の下水道行政		0.5	・札幌市の下水道事業、施設、処理方法等を学ぶ。 （見学先：札幌市下水道科学館／創成川処理場）
		②札幌市の水道行政		0.5	・札幌市の水道事業、施設、浄水方法等を学ぶ。 （見学先：白川浄水場／水質試験場）

項目	科目構成	実施日数		講義・討論・見学項目の具体的な内容	
		講義	視察		
	③札幌市の廃棄物行政		0.5	・札幌市の清掃事業、施設、処分方法を学ぶ。 (見学先：札幌市清掃部篠路清掃工場/リサイクルセンター)	
小計			1.5		
(5)	自然保護	自然保護概要		1.0	・北海道における自然保護の概要について学ぶ。 (見学先：ウトナイ湖ネイチャーセンター)
小計			1.0		
(6)	企業における公害対策			0.5	・企業における公害防止施設を見学し、防止技術を学ぶ。 (見学先：北海道電力(株)苫東厚真発電所)
小計			0.5		
(7)	その他	①カントリーレポート発表	0.5		・研修員各国の環境の現状と抱える問題点及び今回の研修で学ばれたことについて各国の代表に発表してもらう。 ・予定講義を終了後研修員が抱えている疑問について質疑・応答を行う。 ・閉講式、表敬訪問、評価会
		②総合討論会	0.5		
		③その他	0.5		
小計			1.5		
合計			6.5	4.5	技術研修の総日数：11日（うち札幌市における研修日数：9日）

カリキュラム構成図



5. 研修員参加資格要件

(1) 選考方法

割当国政府からの要請書類（A 2 A 3 フォーム）に基づき、General Information（応募要領、以下G. I. と略）に記載されている応募者の資格要件の具備程度、地域性等を総合的に検討し、受入可否を決定する。

(2) G. I. 記載の応募資格要件

- ① 所定の手続きに基づき割当国政府が推薦した者。
- ② 大学を卒業または同等の学力を有する者。
- ③ 中央、地方政府又は地方公共団体等で環境行政に従事している上級技術者。
- ④ 年齢45才以下の者。
- ⑤ 心身ともに健康であり、女性については妊娠していない者。
- ⑥ 軍役に服していない者。

6. 研修実施体制

本研修コースは国際協力事業団北海道国際センター（札幌）が(財)日本国際協力センター北海道支所に研修運営を委託し、環境庁、札幌市等の関係機関の協力を得て実施する。

また、本コースの効果的運営のために進行調整等を行う(財)日本国際センター北海道支所所属の研修監理員（露語）を常時1名配置し、適宜通訳（露語）も1名備上する。

7. 研修機関

(1) 研修実施機関

国際協力事業団北海道国際センター（札幌）

所在地：〒003-0026 札幌市白石区本通16丁目南4番25号

TEL. 011-866-8393（研修課） FAX. 011-866-8382

(2) 研修受入機関

① 環境庁地球環境部

所在地：〒100-8975 東京都千代田区霞が関2-1-3

TEL. 03-3581-3351(ext. 6744) FAX. 03-3504-1634

② 札幌市環境局環境保全部

所在地：〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市庁舎14F

TEL. 011-211-2872 FAX. 011-241-0810

(3) 研修委託機関

(財)日本国際協力センター北海道支所

所在地：〒003-0026 札幌市白石区本通16丁目南4番25号

TEL. 011-866-8335 (直通) FAX. 011-866-8605

8. 教材リスト

- 札幌市政概要
- 環境保全概論
- 大気汚染概論
- 水質汚濁対策（総論）：日本の水質汚濁対策と法制度
- 水質汚濁対策（施策）：札幌市における水質汚濁対策
- 交通公害対策（概論）
- 土壌汚染対策（概論）
- 日本の廃棄物処理のあらまし
- 下水道テキスト

9. 宿泊施設

国際協力事業団北海道国際センター（札幌）

住所：〒003-0026 札幌市白石区本通16丁目南4番25号

TEL. 011-866-8383（代表） FAX. 011-866-8382

10. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

研修員来日の翌日に北海道国際センター（札幌）が実施する。

ブリーフィングにおいては，研修員登録，研修員のパスポート，ビザの有効期間確認，支給される諸手当の説明，その他日常生活を送るうえでの諸注意を行う。

(2) ジェネラル・オリエンテーション

日本滞在中の必要知識として，我が国の現況紹介のためのオリエンテーションを次の日程にて実施する。（北海道国際センター（札幌））

日	程	内	容
3 / 5（木）	10：00～12：00	講義	「日本の政治・行政機構」
	13：00～15：00	講義	「日本の経済」
	15：15～16：45	講義	「日本の社会と日本人」
/ 7（土）	10：00～16：00	市内バス見学	

(3) プログラム・オリエンテーション

研修員に研修目標，内容などについての共通認識を持ってもらうため，札幌市環境局による研修日程の説明を行う。

(4) 閉講式

北海道国際センター（札幌）は最終評価会の終了後に閉講式を開催し，各研修員に研修修了証書（Certificate）を授与する。

11. 研修の評価方法

(1) 評価の目的

本コースの実施状況を明確に把握するとともに、コース目標に対する研修成果を明らかにし、改善すべき点について検討する。

(2) 評価の方法

最終評価会（研修日程終了日）にて、研修員は研修効果、研修内容の自国での適用性等に関する意見の発表を行い、研修員側からのコース評価を明らかにする。

本評価会は、北海道国際センター（札幌）、札幌市環境局環境保全部により実施され、JICA担当者・受入機関担当者・研修員の三者が参加する。

また、研修員の帰国後（原則として1ヵ月以内）に、各評価会での討議内容・研修員記入のJICA所定の様式による質問書・研修監理員による報告書等をもとに、JICA・受入機関による反省会を行い、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、これらの結論をもって翌年度のコース改善に向けての対応方針を導き出す。

12. 平成9年度（第5回）応募，選考結果

定員10名の割当に対し14名の応募があり，選考基準に基づき資格要件等を審査の結果，次のとおり14名全員の受入れを決定した。

	国名	氏名 (研修員番号) 集団参加個別研修員	生年月日 (年齢) 性別	選考結果
	最終学歴 現職			
1	アゼルバイジャン AZERBAIJAN	Mr. Balaga MAMEDOV (D-97-10416) 個別一般	NOV. 12.'55 (42) 男	○
	Chief Specialist, The State Committee for Ecology and Nature Utilization Control Department of Science and Natural Resources Protection (1990~)			
2	カザフスタン KAZAKHSTAN	Ms. Saniya ROZYBAKIYEVA (D-97-02174)	SEP. 04.'51 (46) 女	○
	Chemist, Chemistry, Kazakhstate University, Almaty Kazakhstan (1970 1975) Senior Specialist of the Dept., Ministry of Ecology and Natural Resources, Department of Economics and Ecological Programs Organising (1988~)			
3	カザフスタン KAZAKHSTAN	Mr. Yerbolat Abdukarimovich TAZHMAGAMBETOV (D-97-02175)	NOV. 06.'56 (41) 男	○
	Engineer -Hydrologist-, Hydrology, Kazakh State University, Almaty Kazakhstan (1974 1979) State Ecology Control Dept. Chief, Ministry of Ecology and Natural Resources (1997~)			
4	カザフスタン KAZAKHSTAN	Mr. Nikolay KHLYSTUN (D-97-10803)	APR. 21.'48 (49) 男	○
	Engineer, Electrician, Pavlodar Industrial Institute, Pavlodar Kazakhstan (1966 1972) Head Regional Ecology Administration, Regional Ecology Administration			
5	キルギス KYRGYZ	Mr. Dianybek ADYCHEV (D-97-02166)	AUG. 27.'55 (42) 男	○
	Ph. Doctor, Molecular Biology, Institute of Molecular Biology, Moscow USSR (1981 1985) Chief Specialist Department of Environment Monitoring Manager of the Capacity 21 Project, Ministry of the Environmental Protection of the Kyrgyzstan (1996~)			
6	キルギス KYRGYZ	Mr. Khudaibergenov Azamat DJUZUMKULOVICH (D-97-02167)	JLY. 28.'55 (42) 男	○
	Doctor, Biosphere Reservation, Institute of Economical Parazitology, Moscow USSR (1979 1985) Deputy Director of National Centre, Ministry of Environmental Protection, National Centre on Ecological Strategy and Policy (1997~)			
7	キルギス KYRGYZ	Ms. Bekkulova DJYPARKUL (D-97-10634)	SEP. 25.'56 (41) 女	○
	Engineer Economist, Building Management Planning, Economics Analysis of Industry Activity, Politechnical Institute of Frunze, Kyrgyz Republic (1973 1978) Head of Economic Department, Ministry of Environmental Protection Head of Economic Department (1990~)			
8	モルドヴァ MOLDOVA	Ms. Ludmila MUNTEANU (D-97-09602) 個別一般	MAY. 26.'57 (40) 女	○
	Bachelor in Biology Diploma, Ecology, University "Al I. Cuza", Masi Romania (1991-1996) International Relatio Division, Department for Environmental Protection (1996~)			
9	タジキスタン TADZHIKISTAN	Ms. Azizova TOTCHINISSO (D-97-02172)	SEP. 13.'61 (36) 女	○
	Lawyer, Law, Tajik State University, Dushamte Tajikistan (1978-1983) Head of Depaerment, President Office Republic of Tajikistan Law Department (1995~)			
10	タジキスタン TADZHIKISTAN	Mr. Mahmadaliev Begmurod UBAlDOVICH (D-97-02173)	MAR. 03.'65 (32) 男	○
	Engineer, Agrometorogy, Gidrometeorological Insitute, Ukrainu Odessa (1983-1990) The Chief, The Main Administration Hydrometeorology and Monitoring of the Environment of the Republic of Tjikistan (1996~)			

11	トルクメニスタン TURKMENISTAN	Mr. Gaipov ORUN (D-97-02168)	SEP. 29. '53 (44) 男	○
	Building Engineer, Water Supply and Sewerage, Turkmen Polytechnical Institute, Ashgabat Turkmenistan (1971-1976) Department Head of Administration, Ledap Velayat Administration of Environment and the Use of Natural Resources (1997-)			
12	トルクメニスタン TURKMENISTAN	Mr. Ballyev Batyr BAKHADYROVICH (D-97-02169)	MAY. 24. '71 (26) 男	○
	Doctor, Hygiene, Turkmen State Medical Institute, Ashgabat Turkmenistan (1989-1995) Chief of Department, The Scientific Center of the Ministry of Nature Use and Environmental Protection (1997-)			
13	ウズベキスタン UZBEKISTAN	Mr. KHASANOV Akbarali (D-97-02170)	FEB. 13. '60 (37) 男	○
	Hydraulic Engineer, Water Resources, Tashkent State Institute of Engineers of Mechanisation and Irrigation of Agriculture, Tashkent Uzbekistan (1977-1982) The Head of the Regional Inspection of Using and Protection Water Resources, The Republic of Uzbekistan the State Committee of Protection the Nature of the Republic of Uzbekistan, The Namanoan Regional			
14	ウズベキスタン UZBEKISTAN	Mr. Rahmatjan MUKHAMEJANOV (D-97-02171)	MAR. 10. '48 (49) 男	○
	Engineer Constructor in Water Supply and Sewerage, Tashkent Polytechnical Institute, Tashkent (1966-1971) Head, Tashkent Trust "Suvsoz" Salar Airation Station (1995-)			

付表1. 日程(案)

平成9年度特設中央アジア環境行政コース日程(案)

月日	曜日	時間	研修内容	講師 / 担当	研修場所	宿舎
3/4	水		来日	(株)北海道ツアーシステム		国際協力事業団 〒003-0026 札幌白石区本通 16丁目南4-25 TEL 011-866-8383 FAX 011-866-8382
5	木	9:00 ~ 12:00	(G. O.)日本の教育・行政	北海道銀行国際カスタマーアドバイザー ペロフ・アンドレイ	オリエンテーションルーム	
		13:00 ~ 15:00	(G. O.)日本の経済			
		15:15 ~ 16:45	(G. O.)日本の社会と日本人			
6	金	10:30 ~ 12:30	ブリーフィング	(株)北方圏センター	ブリーフィング	
7	土	10:00 ~ 17:00	市内バスツアー	(株)北方圏センター	札幌市内	
8	日		フリー			
9	月	10:00 ~ 10:25	市長表敬	札幌市環境局環境保全部	市長会議室	
		10:30 ~ 11:30	プログラム・オリエンテーション	札幌市環境局環境保全部環境保全推進担当課長 中井 誠一	市役所12F第1・2会議室	
		13:00 ~ 13:30	帰国便打ち合わせ	(株)北海道ツアーシステム		
		13:30 ~ 17:00	国別発表	札幌市環境局環境保全部環境保全推進担当課長 中井 誠一		
		18:00 ~ 20:00	講師打ち合わせ	札幌市環境局環境保全部		
10	火	9:30 ~ 10:30	(講義)日本の環境行政	環境庁地球環境部環境協力室環境協力専門官 水谷 泰史		
13:30 ~ 16:00	(講義)日本の環境行政	環境庁地球環境部環境協力室環境協力専門官 水谷 泰史				
11	水	9:30 ~ 10:30	(講義)札幌市政概要	札幌市環境局環境保全部長 川瀬 洋三	会議室1	
		10:30 ~ 12:30	(講義)環境保全概論	札幌市環境局環境保全計画課係長 斉藤 進		
		13:30 ~ 16:00	(講義)水質汚濁対策(概論)	札幌市環境局環境保全部指導課水質係 和泉 千尋		
12	木	9:30 ~ 12:00	(講義)水質汚濁対策(各論)	札幌市環境局環境保全部指導課水質係 菅原 弘行	会議室1	
		14:00 ~ 16:00	(見学)北海道コカ・コーラボリಂಗ(株)本社工場	北海道コカ・コーラボリಂಗ(株)本社工場品質管理課長 佐藤 敏一	北海道コカ・コーラボリಂಗ	
13	金	9:30 ~ 12:00	(講義)地下水汚染・土壌汚染 ・ゴルフ場農薬対策	札幌市環境局環境保全部指導課主査 牧口 茂紀	センターセミナールーム9	
		14:00 ~ 16:00	(見学)白川浄水場/水質試験所	札幌市水道局工務部施設管理課 羽生 省吾	藻岩浄水場 /水質試験場	
14	土		ホームヴィジット	ヒッポファミリークラブ		
15	日		フリー			

月 日	曜日	時 間	研 修 内 容	講 師 / 担 当	研 修 場 所	宿 舎
3/16	月	9:30 ~ 12:00	(講義) 交通公害対策	札幌市環境局環境保全部計画課交通公害係 竹下 紀子	会議室 1	サンルート苫小牧 TEL 0144-36-5111 FAX 0144-26-5119
		14:00 ~ 16:00	(見学) リサイクルセンター/篠路清掃工場	札幌市環境局清掃部施設課管理係 三浦 広二	リサイクルセンター篠路清掃工場	
17	火	9:30 ~ 12:00	(講義) 大気汚染対策	札幌市環境局環境保全部指導課大気係 小野 准子	会議室 1	
		14:00 ~ 16:00	(見学) ㈱北海道熱供給公社中央熱製造所	㈱北海道熱供給公社中央熱製造所総務課 菅原 大輔	㈱北海道熱供給公社中央熱製造所	
18	水	9:30 ~ 12:00	(講義) 大気汚染対策	札幌市環境局環境保全部指導課大気係 小野 准子	会議室 1	
		14:00 ~ 16:00	(見学) 下水道科学館/創成川処理場	札幌市下水道局建設部計画課 納谷 明	下水道科学館 /創成川処理場	
19	木	9:30 ~ 12:00	移 動 (札幌→洞爺湖→苫小牧)			
		14:00 ~ 16:00	(講義) ウトナイ湖ネイチャーセンター	ウトナイ湖ネイチャーセンター 葉山 政治	ウトナイ湖ネイチャーセンター	
20	金	10:00 ~ 11:30	(見学) 北海道苫小牧地方環境監視センター	苫小牧地方環境監視センターシステム管理課長 高田 雅之	苫小牧地方環境監視センター	
		14:00 ~ 16:00	(見学) 北海道電力㈱苫東厚真発電所	北海道電力㈱苫東厚真発電所技術課長 武田 宏之	北電㈱苫東厚真発電所	
21	土		フリー			
22	日		フリー			
23	月	10:00 ~ 12:00	総合討論会	札幌市環境局環境保全推進担当課長 中井 誠一	センター会議室 1	
		13:30 ~ 15:30	評価会	JICA北海道国際センター (札幌)		
		16:00 ~ 16:30	閉講式	JICA北海道国際センター (札幌)	利エンテションルーム	
		17:00 ~ 18:30	歓送会		7期フィンガールーム	
24	火	10:00 ~ 12:00	移 動 (札幌→東京)	㈱北海道ツアーシステム		
25	水	12:30	帰国指定日			成田東急イン TEL : 0476-33-0109

付表 2. 研修員リスト

付表 - 2

LIST OF PARTICIPANTS IN "ENVIRONMENTAL ADMINISTRATION FOR CENTRAL ASIAN COUNTRIES F. Y. 1997"

(平成 9 年度特設中央アジア環境行政コース研修員名簿 J-97-10498)

国際協力事業団
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Duration: March 4 ~: March 25, 1998

COUNTRY	N A M E	DATE OF BIRTH	PRESENT OCCUPATION	EDUCATIONAL RECORD	ADDRESS FOR CORRESPONDENCE
KAZAKHSTAN (カザフスタン)	Ms. Saniya <u>ROZYBAKIYEVA</u> (ロジバキエフ)	Sep. 4, 1951 (D-97-02174)	Senior Specialist, Dept. of Economics and Ecological Programs Organising, Ministry of Ecology and Natural Resources 環境・自然資源省経済・環境計画部主任専門家	Kazakh State University (1970-1975, 化学)	106 Panfilova st. Almaty, 480091, Kazakhstan
KAZAKHSTAN (カザフスタン)	Mr. Yerbolat Abdukarimovich <u>TAZHMACAMBETOV</u> (タジマガンベトフ)	Nov. 6, 1956 (D-97-02175)	Chief of State Ecology Control Dept., Ministry of Ecology and Natural Resources 環境・自然資源省国家環境管理部部長	Kazakh State University (1974-1979, 水文学)	106 Panfilova st. Almaty, 480091, Kazakhstan
KAZAKHSTAN (カザフスタン)	Mr. Nikolay <u>KHLYSTUN</u> (フルイストゥン)	Apr. 21, 1948 (D-97-10803)	Head of Regional Ecology Administration 地域環境管理局局長	Pavlodar Industrian Institute (1966-1972, 電気技術)	70, st. 1 may, Department Ecology Pavlodar, Kazakhstan
KYRGYZ (キルギス)	Mr. Dianybek <u>ADYCHEV</u> (アドウイチェフ)	Aug. 27, 1955 (D-97-02166)	Chief Specialist, Dept. of Environment Monitoring, Ministry of the Environmental Protection of the Kyrgyzstan 環境保全省環境モニタリング部主任専門家	Moscow State University (1974-1978, 分子生物学)	131 Isanov st., Bishkek, 720033, Kyrgystan
KYRGYZ (キルギス)	Mr. Azamat Diuzumkulovich <u>KHUDAIBERGENOV</u> (フダイベルゲノフ)	Jul. 28, 1955 (D-97-02167)	Deputy Director, National Center on Ecological Strategy and Policy, Ministry of Environmental Protection 環境保全省国立環境戦略・政策センター副所長	Kyrgyz State University (1972-1977, 生物学)	131 Isanov st., Bishkek, 720033, Kyrgystan
KYRGYZ (キルギス)	Ms. Djyparkul <u>BEKKULOVA</u> (ベックローフ)	Sep. 25, 1956 (D-97-10634)	Head of Economic Dept., Ministry of Environmental Protection 環境保全省経済部部長	Politechnical Institute of Frunze (1973-1978, 事業経営分析)	131 Isanov st., Bishkek, 720033, Kyrgystan
TAJIKISTAN (タジキスタン)	Ms. Totchinisso <u>AZIZOVA</u> (アジゾワ)	Sep. 13, 1961 (D-97-02172)	Head of Law Dept., President Office of the Republic of Tajikistan 大統領府法務部部長	Tajik State University (1978-1983, 法律)	80 Rudaki st. Dushanbe 734025, Tajikistan
TAJIKISTAN (タジキスタン)	Mr. Begmurod Ubaidovich <u>MAHMADALIEV</u> (マフマダリエフ)	Mar. 3, 1965 (D-97-02173)	Chief of the Main Administration Hydrometeorology and Monitoring of the Environment of the Republic of Tajikistan 気象・環境モニタリング中央管理局局長	Hydrometeorological Institute (1983-1990, 農業気象学)	47 Shevchenko st., Dushanbe, 734025 Tajikistan

PROVINCE	N A M E	DATE OF BIRTH	PRESENT OCCUPATION	EDUCATIONAL RECORD	ADDRESS FOR CORRESPONDENCE
TURKMENISTAN (トルクメニスタン)	Mr. Orun <u>GAIPOV</u> (ガイポフ)	Sep. 29, 1953 (D-97-02168)	Deputy Head of Lebap Velayat Administration of Environment and the Use of Natural Resources レバプ州環境・自然資源利用管理局副局長	Turkmen Polytechnical Institute (1971-1976, 上下水道学)	54 Dnepropetrovskaya st., Chardiev, Turkmenistan
TURKMENISTAN (トルクメニスタン)	Mr. Batyr Bakhadyrevich <u>BALLYEV</u> (バーリエフ)	May. 24, 1971 (D-97-02189)	Chief of Dept., The Scientific Center of the Ministry of Nature Use and Environmental Protection 自然利用・環境保全省科学センター部長	Turkmen State Medical Institute (1989-1995, 衛生学)	102 Kemine st., Ashgabat Turkmenistan
UZBEKISTAN (ウズベキスタン)	Mr. Akbarali <u>KHASANOV</u> (ハサーノフ)	Feb. 13, 1960 (D-97-02170)	Head of the Regional Inspection of Using and Protection Water Resources, The State Committee of Protection the Nature of the Republic of Uzbekistan 国家自然保護委員会地域水資源利用・保護監督局局長	Tashkent State Institute of Engineers on Mechanization and Irrigation of Agriculture (1977-1982, 水力学)	1 Khivinskaya st. Namangan, Uzbekistan
UZBEKISTAN (ウズベキスタン)	Mr. Rahmatjan <u>MUKHAMEDJANOV</u> (ムハメジャーノフ)	Mar. 10, 1948 (D-97-02171)	Head of Tashkent Trust "Suvsoz" Solar Aeration Station タシケント企業合同「Suvsoz」ソーラーエアレーションステーション所長	Tashkent Polytechnical Institute (1966-1971, 上下水道工学)	The 2nd Blind alley, 21 Karasarai, Tashkent, 700069 Uzbekistan
MOLDOVA (モルドヴァ) (個別参加)	Ms. Ludmia <u>MUNTEANU</u> (ムンテアーヌ)	May. 26, 1975 (D-97-09602)	International Relations Division, Department for Environmental Protection 環境保全局国際関係部	University "AL. I. CUZA" (1991-1996, 生態学)	73 Stefan cel Mare bd. 2001, Chisinau, Moldova
AZERBAIJAN (アゼルバイジャン) (個別参加)	Mr. Balaga <u>NAMEDOV</u> (マーメドフ)	Nov. 12, 1955 (D-97-10944)	Chief specialist, The State Committee for Ecology and Nature Utilization Control, Department of Science and Natural Resources Protection 科学・天然資源保護局 生態及び自然利用管理国家委員会主任専門家	Azerbaijan State University (1973-1978, 物理学)	31 Instiglaliyyat st., Baku, Azerbaijan

付表3. 年度別研修員受入実績表

1. 応募/選定(受入)人数

	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	年度	累 計
応 募 数	9	10	13	12	14		58
受 入 数	7	10	10	12	14		53

2. 受入研修員の出身国

○男性 ●女性

国 名	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	年度	累 計
(中央アジア地域)							
カザフスタン	○2	○2	○●	○2●	○2●		12
キルギス	○	○	●2	○3	○2●		10
タジキスタン	○	○2	○2	○●	○●		9
トルクメニスタン	○2	○2	○●	○●	○2		10
ウズベキスタン	○	○2	○2	○2	○2		9
(コーカサス諸国)							
ゲルジア		○					1
モルドヴァ					●(個)		1
アゼルバイジャン					○(個)		1
計	5ヶ国 7名	6ヶ国 10名	5ヶ国 10名	5ヶ国 12名	7ヶ国 14名	ヶ国 名	8ヶ国 53名